

## 58.こうちエコチル調査のリクルート1年目の実施状況

南まりな<sup>1)</sup>、安光ラヴェル香保子<sup>1)</sup>、金房雄飛<sup>2)</sup>、大石拓<sup>3)</sup>、栄徳勝光<sup>1)</sup> 菅沼成文<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 高知大学教育研究部医療学系連携医学部門環境医学

<sup>2)</sup> 高知大学医学部医学科2年生

<sup>3)</sup> 高知大学教育研究部医療学系臨床医学部門小児思春期医学

### 【背景】

近年、子どもに対する環境リスクが増大しているのではないかとの懸念があり、環境中の有害物に対する子どもの脆弱性について、国内外で大きな関心が払われている。そこで、環境要因（化学物質の曝露、生活環境等）が子どもの健康に与える影響を明らかにすることを目的として、環境省主催で全国10万人の子どもを対象とした新規出生コホート調査である「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」が実施されている。

高知大学は2010年4月にエコチル調査の15のユニットセンターの一つとして認定を受け、2011年1月以降の3年間で高知市、南国市、四万十市、梶原町在住の妊婦5千人のリクルートを行っている。

本演題ではリクルート1年目が終了した段階での調査の実施状況について報告する。

### 【目的】

環境要因（化学物質の曝露、生活環境等）が子どもの健康に与える影響を明らかにする。

### 【方法】

3年間のリクルート期間中に、高知県下ほぼ全ての産科施設に常駐するスタッフが、高知市、南国市、四万十市、梶原町在住の妊婦5000人から同意取得する。

妊娠初期、中・後期、出産入院時、1ヶ月健診時に以下の調査項目を行う。

- ① 診察記録、妊婦健診記録の転記
- ② 質問票調査
- ③ 生体試料採取（血液、尿、母乳、毛髪）

妊娠初期		妊娠中期後期		出産・入院時		1ヶ月健診	
採血	401 (87%)	採血	452 (97%)	臍帯血	458 (99%)	母乳	432 (93%)
採尿	389 (84%)	採尿	451 (97%)	ろ紙血	458 (99%)	子ども毛髪	434 (94%)
質問票	452 (97%)	質問票	460 (99%)	母体血	460 (99%)	質問票	442 (95%)
				母親毛髪	434 (94%)		

表1 1ヶ月健診修了者462名の状況 H23.11.30 現在

産科施設通院期間後も児が13歳になるまで半年に一度の質問票調査や、6、12歳児の小児科診察等のフォローアップを行い、環境要因のサンプリング、交絡要因・アウトカム情報の収集を行う。

### 【結果】

リクルート数は目標である年間1700人をクリアしている。

1ヶ月健診が終了した参加者に関して、通院期間に実施した質問票調査は95%を超過回収率となっている。生体試料採取はリクルート開始のタイミングが遅かった参加者もいるため妊娠初期の回収率は85%前後となっているが、その他は95%前後となっている。

### 【考察】

質問票、生体試料の回収率はいずれも高い基準を維持しており、リクルート数の順調な増加と併せて、調査進捗のコントロールが良好になされていると考えられる。